

私が見果てぬ夢

金子 明 博

夢は創造活動の源であり、過酷な現実の癒しでもある。私が見果てぬ夢を三つ御紹介したい。

1. 眼動脈注入の網膜芽細胞腫以外への応用

我々のチームで開発した網膜芽細胞腫の選択的網膜脈注入法は今や世界的な新しい治療法として認知されている。昨年、胞状網膜剝離を呈するコーツ病の症例に使用し、1回のメルハラン注入で剝離が消失した。この症例を本年クリーグランドで開催された第13回国際眼腫瘍学会で報告したが、網膜芽細胞腫以外の疾患にも有用であることを示唆する内容で注目された。私見では本法は極少量の薬物を、高濃度で目的とする病変に注入する方法として非常に有用であると思われる。眼部に多い低悪性度リンパ腫や網脈絡膜の新生血管による疾患への活用が夢である。

2. 婚 活

東大の元医学部長で、私と同年の石川隆俊先生が、最近『なぜヒトだけがいくつになっても異性を求めるのか』との題名の名著を出している。定年前は病理学の教授であったが、診療していて聞きやすい患者さんや知人の80人近い男女の高齢者から性生活について克明に問診し、ご本人のキタ・セクスアリスまで掲載している医学的にも貴重な単行本である。さすがに東大名誉教授なので、最近の週刊誌でよく取り上げられるテーマではあるが、それらと比較すると遥かに格調が高く、信頼性にも勝る。私

は独身証明書の獲得は出来たが、その後良い出会いが無く、癒されるパートナーとの遭遇が夢である。

3. ゴ ル フ

故鹿野教授の東大眼科医局に入局したころ、増田寛次郎先生をはじめとして医局員のゴルフが盛んであった。しかし私は郵政省の公務員であった父親が小学校6年生の時に病死し、母親が郵政省の独身寮の賄婦として働き、我々兄弟姉妹六人が養育された貧しい家庭に育ったため、経済的なゆとりが全く無かった。医局では私だけがゴルフを行わない変わり者であった。国立がんセンター中央病院を定年退職後は、年金が給付され、兼業禁止の制約も無くなり、土日も休まず診療しているので収入が倍増した。おまけに時間的なゆとりも出来たので、念願のゴルフの練習を始めた。テニスを30年来している関係で、クラブをラケットのように振るので、スライスが多く、練習場で見る上手な方々のように真直ぐに飛ばず、ラウンドしても恥ずかしいスコアである。最近板橋区成増に転居し、良いレッスンプロとの出会いがあり、少しずつスライスが減りだした。そのため練習が楽しくなり、週4日勤務している診療所から帰宅後、近くの練習場に週3日程出かける事が多い。1人でラウンド出来る9ホールのゴルフ場も見つけ、試行錯誤を重ねている。入局時代を思い出して良い回春となっているが、何とか早く120以下のスコアにすることが夢である。